

二十八億円。建物(延べ約二万三千平方メートル)に、約二億二千万円を費やして、約二万二千平方メートルの工場とし、余剰となる生産設備をインドや中



柔らかな太陽光を取り込むスカイトップライト

自慢の天窗もデビュー

スカイツリータウン

自立式電波塔として、関連施設では、天窗採用された。世界一高い東京スカイツリー(東京都墨田区)が二十二日開業し、手掛ける天窗昼光照明だが、その足元の商業

浜松のスカイプランニング

和らげる効果がある。光量は通常のガラス窓の六割程度に弱まり、暑さやまぶしさを軽減できる。使用されるのは、商業施設の東京ソラマチにある「すみだ水族館」の玄関と、東武スカイツリーラインとうきょうスカイツリーとの連絡通路のいずれも天井部。照明器具を使わない環境に配慮した施設を建設する中で、同社に相談があったという。小野曰く「スカイツリーを訪れる多くの人に、わが社の製品を見てもらいたい」と述べた。

上越火力2号機 試運転

中電夏の需給対策へ期待

中部電力は二十二日、新潟県上越市で建設中の上越火力発電所1号系列2号機(出力五九・五万キロワット)の発電を開始した。まだ試運転の段階で、営業運転の開始は来年一月初旬だが、試運転による電力も送電線に流して管

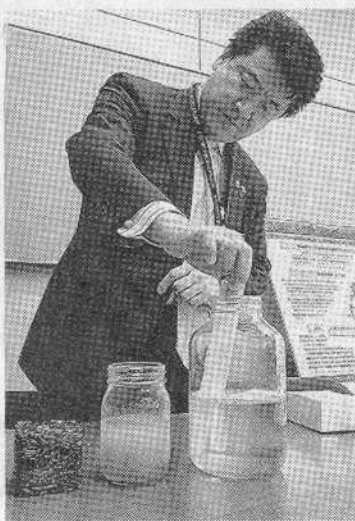


中部電力は二十二日、午前十時半から六時、新潟県上越市で建設中の上越火力発電所1号系列2号機(出力五九・五万キロワット)の発電を開始した。まだ試運転の段階で、営業運転の開始は来年一月初旬だが、試運転による電力も送電線に流して管

に対する供給余力を5・2%と試算しているが、2号機がフル出力で発電すれば、計算上は余力を2・2%上積みできる効果がある。このため今夏は2号機の状態を毎日確認し、どれだけ発電できるかを判断する方針。

サツ川製作所 「環境」知事賞

独自溶剤で発泡スチロール資源化



サツ川製作所が環境保全のために開発した発泡スチロールを溶かして再資源化する溶剤

環境関連装置などを製造・販売するサツ川製作所(浜松市南区)が手掛ける「発泡スチロールを五百円で買い取り、同社のプラント工場場で溶剤と樹脂に分離し、プラスチック製品

電販売店や住宅設備業などから、一カ月に十件ほどの新規注文があるという。知事褒賞は、環境保全に取り組む学校や企業を対象に選定。今回は二十五件の応募の中から四件を表彰。サツ川製作所は、中小企業の部で受賞した。薩川敏社長は、「発泡スチロールは98%は空気でできているが、容積が大きい。産廃処